

知的障がい特別支援学校における 授業改善に関する研究

～文部科学省著作教科書（星本）を活用した児童
生徒の資質・能力の育成を目指す授業づくり～

令和7年（2025年）2月28日（金）15：25～15：50

北海道立特別支援教育センター

研究員 小 幡 史 門

内容

- 1 研究の背景及び目的
- 2 研究の方法
- 3 研究の内容
- 4 研究のまとめ



1 研究の背景及び目的

(1) 研究の背景

ア 育成を目指す三つの柱

現行の学習指導要領では、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。

知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科等においても、目標や内容が育成を目指す資質・能力の三つの柱で整理され、段階ごとの目標や内容が示された。

イ 知的障がい教育における現状と課題

知的障がいの学習上の特性や一人一人の知的障がいの状態や経験等に応じて生活に結びついた具体的な指導内容の設定や実際の学習活動の継続的な実施により、身に付いた知識や技能等が卒業後の自立と社会参加に生かされている。

一方で、**各教科の目標が十分に意識されずに指導や評価が行われている**場合がある。

「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会特別支援教育部会における審議の取りまとめ」（平成28年）

活動のみを重視した計画を立てたり、**育てたい力が曖昧**であったりすると、生活上の課題を達成するような文脈のある活動にならなかったり、活動の中で、領域や教科の内容を習得することができないような取組になってしまったりする。

「【基幹研究】知的障害教育における『育成すべき資質・能力』を踏まえた教育課程編成の在り方」（平成29年）国立特別支援教育総合研究所

ウ 国の動向

現行学習指導要領の実施上の課題

- ・ **記載に分かりにくい側面**がある（曖昧な用語、多義的な用語、誤解を招く用語）
- ・ 固定的な経路での情報伝達では、**学習指導要領の趣旨やねらいが十分に伝わらない**のではないかと。

「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理」（令和6年9月）

エ 本道の知的障がい教育の課題

知的障がい特別支援学校の**各教科等の目標や内容、各段階のつながり**及び小・中学校等の各教科等との学びの連続性を踏まえた、個別の指導計画の活用による**各教科等の指導の充実**

「特別支援教育に関する基本方針」（令和5年3月）北海道教育委員会

オ 文部科学省著作教科書（星本）について

知的障害者である児童生徒を教育する特別支援学校の**各教科において育むべき資質・能力を着実に児童生徒に身に付けさせる観点**から、国語、算数・数学、音楽以外の教科についても、各学校における指導の状況や学習者用デジタル教科書の在り方に係る検討の方向性に留意しつつ、著作教科書（知的障害者用）を作成することが必要である。

「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告」（令和3年1月）

各教科等において育むべき資質・能力を着実に児童生徒に身に付けさせることができるよう、障がいの状態等に応じて文部科学省著作教科書等の活用を推進する。

「特別支援教育に関する基本方針 令和5年度～令和9年度」（令和5年3月）

(2) 研究の目的

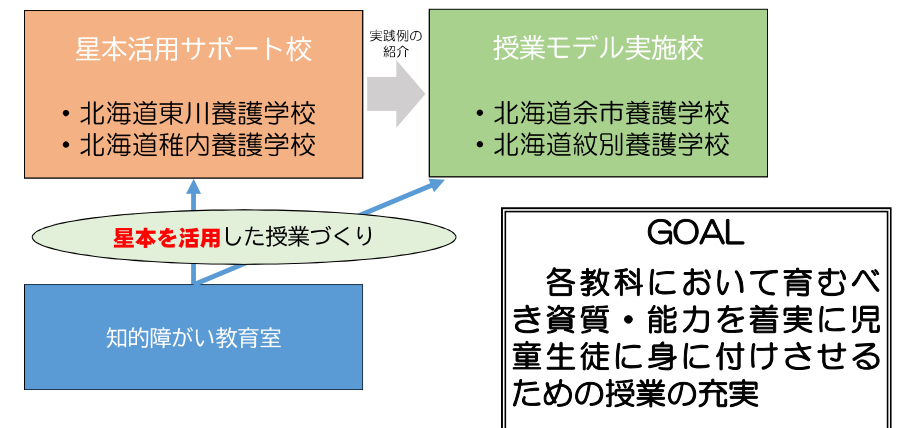
知的障がい教育に携わる教員が、各教科等で育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえた授業づくりへの理解を深められるよう、特別支援学校と連携し、**文部科学省著作教科書（星本）**を活用した授業モデルを構築することにより、知的障がい教育における授業づくりの充実に資する。

2 研究の方法

(1) 研究の方法① アンケート調査

道内知的障がい特別支援学校において、**育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえた授業づくりに関する取組の状況や課題、文部科学省著作教科書（星本）の認知と活用の状況**を把握・分析し研究に生かすことを目的に、全道の知的障がい特別支援学校48校の学部主事及び学年主任と教務主任を対象として実施

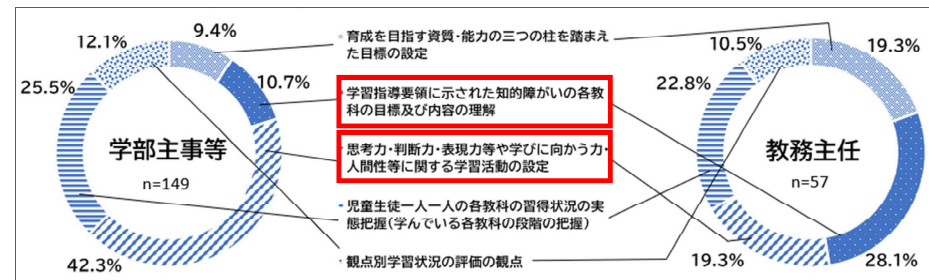
(2) 研究の方法② 研究協力校における授業づくり



3 研究の内容

(1) アンケート調査 ア 授業づくりの現状と課題

教科別の指導において、資質・能力の育成に向けた授業づくりの課題と感じていることは何ですか。



星本とは・・・



- 文部科学省が著作の名義を有する教科用図書のうち、知的障がい者用のもの。
- 学ぶ内容を、小学校3段階、中学校2段階で分け、「せいかつ☆」、「こくご☆☆」のように段階を☆の数で示していることから通称「星本」と呼ばれている。
- 現在は国語科、算数・数学科、音楽科、生活科の4教科がある。令和7年度に中学部の社会科、理科、職業・家庭科の星本が発行予定。

- 知的障がいのある子どもたちのために、その障がい特性を踏まえながら、対象となる子どもの発達段階を踏まえた内容で構成される。
- 学校生活や日常生活の課題や流れと関連のある題材やテーマを取り上げ、学んだことが次の学びや学校生活、日常生活及び将来の人生に生きる内容となるように工夫されている。
- 各段階において、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養につながる題材が選定されている。

教科書解説とは・・・



- 星本を適切に使用し、当該教科において育成を目指す資質・能力を身に付けることができるようにするために、教師用の教科書解説として作成されたもの。
- 現在はこくご（国語）、算数（数学）、おんがく（音楽）、せいかつの教科書解説がある。

- 内容は主に「本題材に関連する、学習指導要領の主な内容」、「題材について」、「学習指導例」、「指導上の留意点」から構成される。
- 的確に読み解くことで子どもの発達段階に合わせた指導を展開していくことが可能となる。（是枝2022）
- 星本を十分に活用するためには、教科書解説に示された題材の説明や取り扱い方を十分検討する必要がある。（加藤2022）

(2) 本研究における授業モデル

STEP1

学習状況の把握

STEP2

資質・能力の明確化

STEP3

星本での題材の確認

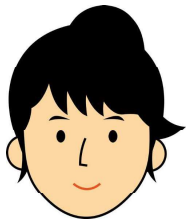
STEP4

指導計画の作成

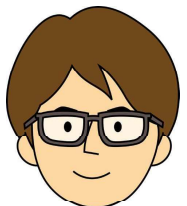
(3) 研究協力校における授業づくり A ア 対象生徒の実態

対象生徒	中学部3年生（普通学級）
実態	- 学習では、同じところでつまづいたり忘れてしまったりすることが多く、繰り返し学習に取り組むものの学習内容の習得・定着には至らないことが多い。 - 中学部入学当初は、心理的な安定の面から授業に遅れたり集団から逸脱したりすることが見られていたが、学校生活で少しずつ自信を積み重ねる中で、集中して課題に取り組んだり、人前で発表したりする姿が見られるようになってきた。 - 身近な人や友達との会話ややりとりを好み、自分の考えや意見を相手に伝えることができる。 - 読むことに対して苦手意識が強い。漢字に振り仮名を付けたり、テンポ良く読むことができるように印を付けたりすることによって主体的に学習に取り組むことができている。

イ 授業づくりの課題



対象生徒は、少しずつ力を付けてきているけど、長い文章は集中力が持続しにくかったり、興味や関心のあるものが限定的であったりすることから、適切な題材を設定することが難しいな。



学習の中で、思考力・判断力・表現力等を育成するための学習活動や問いを設けていくことが課題です。

ウ 星本を活用した授業づくり

STEP1 学習状況の把握

児童生徒が、学習指導要領に基づいてこれまで何をやったのかを明確にし、学びの段階を把握します。（本研究では、福岡県特別支援教育センターの「学びの履歴シート」を活用）



中学部【国語】1段階		1年生	2年生	3年生
知識及び技能	ア 言葉の特性や使い方を理解すること。			
	イ 言葉の特性や使い方を理解すること。			
	ウ 言葉の特性や使い方を理解すること。			
	エ 言葉の特性や使い方を理解すること。			
思考力・判断力・表現力等	オ 言葉の特性や使い方を理解すること。			
	カ 言葉の特性や使い方を理解すること。			
	ク 言葉の特性や使い方を理解すること。			
	ケ 言葉の特性や使い方を理解すること。			
学びの履歴シート	ア 身近な人や友達との会話ややりとりを好み、自分の考えや意見を相手に伝えることができる。			
	イ 同じところや場面を繰り返し読むことができる。			
	ウ 文章の構成や筋道を理解することができる。			
	エ 文章の構成や筋道を理解することができる。			

STEP2

資質・能力の明確化

児童生徒の学習状況を把握した上で、各教科の該当する段階に示される目標及び内容を確認し、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にする。

中学部【国語】1段階			
内容	1学年	2学年	3学年
ア 言葉の特徴や使い方 (ア)身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、 (イ)身振や表情などによって、自分の気持ちを伝える働きがあることを知る。			
イ 言葉のまとまりに気を付けて音読すること。 (イ) 語のまとまりに気を付けて音読すること。			
エ 語や文章の中に含まれている情報の扱い方 (エ) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。			

学習指導要領解説各教科等編

- ・ 明瞭な発音で文章を読むこと
- ・ ひとまとまりの語や文として読むこと
- ・ 言葉の響きやリズムなどに注意して読むこと
- ・ 発音や声の大きさに気を付けて話すこと
- ・ 聞くということを意識できるようにすること

STEP3

星本での題材の確認

明確となった育成を目指す資質・能力に対応する題材を教科書解説の「星取表」で確認し、その題材の特徴や題材をとおして学習していきたい内容を読み解きます。

育成を目指す資質・能力
(キ) 語のまとまりに気を付けて音読すること。

星取表で対応する。
題材を確認する。

教科書解説を
読み解く。



STEP4

指導計画の作成

児童生徒が学ぶ必然性を感じ、主体的に学んでいくことができるように、具体的な指導内容を設定します。また、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、どの時間にどの観点の評価を重点的に行うか、という評価計画を立てます。



工 単元の構想

- ・ 主人公の心情に着目しやすい内容であり、挿絵によって展開やあらすじが捉えやすいことから「わらしべ長者」を授業の題材として取り扱うこととした。
- ・ 全体を六つの場面に分けて学習することができるように教材を工夫した。
- ・ 情景や場面、登場人物の心情などの正しい理解や想像する力の向上を図ることができるように、生徒が場面に応じた挿絵を選ぶなどしてデジタル紙芝居を制作する課題を設定した。

才 成果

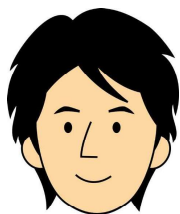
星本及び教科書解説を読み解き、育成を目指す資質・能力と対応した星本の題材（わらしべ長者）の考え方や学習指導例などと、対象生徒の実態とを勘案して、適切な題材を選定することができた。

育成を目指す資質・能力を明確にして授業づくりを行うことで、思考力・判断力・表現力等の目標を明確化することができ、達成に向けた具体的な手立てを講じることができた。

(3) 研究協力校における授業づくりB ア 対象児童の実態

対象児童	小学部1年生（重複学級）
実態	- 知的障がいと両下肢機能不全を併せ有する。 - 日常生活に必要な動作や健康の保持増進に関連する内容が個別の教育支援計画に位置付けられていて、学校生活においても歩いたり水分補給をしたりする場面を適宜設けている。 - 発語はないが、教師の手を引っ張って自分の気持ちや要求を伝えようとする芽生えが見られる。 - 心理的な不安定さによって、学習へ気持ちを向けることが難しい場合がある。 - 教師とのやりとりを通じて身近な言葉や人の名前などに触れる中で、知っている言葉が少しずつ増えてきた。

イ 授業づくりの課題



各教科の目標や学習内容の設定、題材の選定の際に難しさを感じることがあります。

ウ 星本を活用した授業づくり

STEP1

学習状況の把握

児童生徒が、学習指導要領に基づいてこれまでに何を学び、何が身に付いたのかを明確にし、学びの段階を把握します。（本研究では、福岡県特別支援教育センターの「学びの履歴シート」を活用）

小学部【国語】1段階				
内 容		1学年	2学年	3学年
知識及び技能	ア 言葉の特徴や使い方 (ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 (イ)言葉のもつ音やリズムに触れ、言葉が表す事物やイメージに触れられること。	☐	☐	☐
	イ 我が国の言語文化 (ア)音語などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。 (イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。 (ウ)書くことに関する次の事項を理解し、使うこと。 ① いろいろな筆習字に触れ、書くことを知ること。 ② 筆習字の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。 (エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	☐	☐	☐
	A 聞くこと・話すこと ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。 イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。 ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	☐	☐	☐
思考力・判断力・表現力等	B 書くこと ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。 イ 文字に興味をもち、書くこと。	☐	☐	☐
	C 読むこと ア 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。 イ 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。 ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。 エ 絵本などを見て、次の場面を楽しんだり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	☐	☐	☐
	D 話している人へ支援を向けたり、顔を向けたりすること。 ア 教師と一緒に音声を模倣、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現すること。	☐	☐	☐
■ 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(H29)に示される各教科の「目標」に照らして、その「内容」の習得状況を記入する。【○：学習した内容をおおむね習得している】 ※ まだ学習していない内容については、空欄にする。				

STEP2

資質・能力の明確化

児童生徒の学習状況を把握した上で、各教科の該当する段階に示される目標及び内容を確認し、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にする。

小学部【国語】1段階		1学年	2学年	3学年
内 容				
知識及び技能	ア 言葉の指図や使い方 (ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 (イ)言葉のもつとらえ方に慣れ、言葉が表す事物やイメージに慣れ、感じること。			
	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 (イ)身近な人からの話し掛けに注目したり、応じたりすること。			
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。			
	ア 教師の話や読み聞かせの話しを模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現し、表現すること。			
思考	イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。			
	ウ さまざまなアを思い浮かべ、身振りや言葉などで表現すること。			

学習指導要領解説各教科等編

- ・人との関わりの中で言葉が用いられていることに注意を向けること
- ・言葉と事物が徐々に一致してきたり、自分なりの表現を繰り返す中で要求が相手に伝わること
- ・関心をもって話し手を見ること

STEP3

星本での題材の確認

明確となった育成を目指す資質・能力に対応する題材を教科書解説の「星取表」で確認し、その題材の特徴や題材をとおして学習していきたい内容を読み解きます。

育成を目指す資質・能力

ア（ア）身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。
アイ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じたりすること。

星取表で対応する題材を確認する

教科書解説を読み解く



STEP4

指導計画の作成

児童生徒が学ぶ必然性を感じ、主体的に学んでいくことができるように、具体的な指導内容を設定します。また、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、どの時間にどの観点の評価を重点的に行うか、という評価計画を立てます。



工 単元の構想

- ・本児童の実態から、星本に示される「おーい」を参考に、絵本の読み聞かせの学習を行い、言葉の存在や有する意味を理解していくことができるようにした。
- ・本児童にとって、必然性のある有意味な文脈で学ぶことができるように、動作を表す言葉が繰り返し出てくる「だるまさんが」や「ぎゅっ」を題材とした。
- ・本単元の学習をとおして、言葉の表出につながるような素地を培っていくことができるようにした。

才 成果

育成を目指す資質・能力に対応する星本の題材の教科書解説の記載事項及び学習指導要領を読み解くことで、よりよい単元の構想につながり、資質・能力を着実に身に付けさせるための学習内容を設定することができた。

学びの履歴シートや教科書解説、学習指導要領を一体的に捉えることで、段階における教科の目標の理解が深まり、適切に目標を設定することができた。

授業後のオンライン会議から

星本は学習指導要領に沿った内容のため、明確なねらいをもって題材を選ぶことができました。特に教科書解説の学習指導例は授業づくりのヒントになりました。



今回の授業づくりを通して、子どもの姿から単元や授業を考えるということの大切さに改めて気付きました。今回は国語科の授業でしたが、他の教科の授業づくりについても星本を活用していきたいと感じました。



今回の授業づくりでは、学習の習得状況に着目できたことと、教科書解説によって題材や指導内容について工夫を凝らすことができたことがポイントでした。



星本や教科書解説を読み解く中で、当初予定していた単元の構想が変化していきました。それによって、学びの段階を的確に捉えた授業づくりにつながりました。

4 研究のまとめ

まとめ

研究の成果

- 星本及び教科書解説を活用した授業モデルを構築し、星本を活用した授業づくりを行うことによって、各教科において育むべき資質・能力を着実に児童生徒に身に付けさせるための授業の充実につなげることができた。

今後の課題

- 授業改善のプロセスにおいて、授業の評価を行ったり改善の方策を検討したりするには至らなかった。
- 本研究でまとめた星本を活用した授業実践は限定的であるため、より多くの事例をとおして星本を活用した授業実践の普及を図り、知的障がい教育の充実につなげる必要がある。